

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0173100371		
法人名	有限会社 プランタン東川		
事業所名	グループホーム プランタン東川		
所在地	上川郡東川町北町3丁目520-17 (電話) 0166-82-5430		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月12日	評価確定日	平成20年2月7日

【情報提供票より】 (平成19年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤7人, 非常勤	16 人, 常勤換算 10.4 人

(2) 建物概要

建物構造	壁式鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000円(暖房費込み)	その他の経費(月額)	
敷金	有()	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有()	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200	円

(4) 利用者の概要(平成19年10月22日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 78.6歳	最低	64歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭川ペインクリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東川町の幹線通りに面し、向かいにスーパーや飲食店もあり、立地条件に恵まれたグループホームです。ホーム内は明るく清潔感があり、バリアフリー対応がされ、手すりも随所にあり、看護師が常勤し、安心できる暮らしの場となっています。また、2階のフリースペースにはプランターに花が植えられ、焼き肉などを楽しめる場となっており、災害時の際の一時避難場所として使用できるようになっています。職員間の関係もよく徐々に定着しつつあります。今後、地域住民の方々や保育所、学校との交流がますます盛んに行なわれるよう期待します。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で指摘された改善点のうち、ホーム内の表示について、手すりの形状について、日中の施錠についてなど、即対応できるものより改善し、そのほかの改善課題についてもミーティングなどで全職員で話し合い改善に向け努力しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価に取り組んでいます。職員全員が評価の意義を理解し、日々のケアサービスに活かしていくことを期待します。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 現在、運営推進会議は開催されていません。運営推進会議などを通じ、グループホームの存在や役割を知って頂く良い機会となるので早い時期に開催され、地域の方に理解が得られるよう積極的な働き掛けを期待します。
	重点項目③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時には、利用者の暮らしぶりや健康面での報告をしながら、気軽に意見、要望を話してもらえよう配慮し、家族とのコミュニケーションを大切にしています。「ホーム便り」は作成していないため、毎月の請求書、預り金明細書送付時に、利用者一人ひとりの近況を「お手紙」にて家族の方へ送付しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、町内の行事に積極的に参加したり、町内の方が見学に来られるなど、徐々に関係が構築されつつあります。また、ホームの行事に町内の方や幼稚園、学校の方を招待するなど、具体的な取り組みを計画しています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を掲げ、見やすい所に掲示し、職員と日々理念を実践するため努力されているが、地域密着型サービスとしての理念の見直しや職員間の話し合いは行なわれていない。	○	地域密着型サービスとしての意義を全職員が認識し、地域に根ざしていくためのホーム独自の理念を作りあげることが期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、ホームの理念を理解し、ミーティングなどを通して職員と共有しながら実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、町内の行事に参加している。町内の方がホームの見学に来られたり、周辺の福祉施設と交流し、少しずつ関係が構築されつつあるが、近隣の方々との密な交流までには至っていない。	○	地域交流は徐々に浸透してきているが、今後さらに深めるために地域の方が立ち寄りやすい環境を作りホームの行事に招待するなどの具体的な取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は自己評価や外部評価の意義を理解し、職員とともに取り組んでいる。前回評価で指摘された改善課題はミーティングなどで全職員で話し合い、改善に向け努力されている。		

東川町 グループホーム プランタン東川

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の準備はされているが、開催には至っていない。今年中には開催する予定である。	○	地域関係者への積極的な呼び掛けを行ない理解を深め、充実した内容で会議が早い時期に開催されることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町が主催する認知症の講習会に職員4名が参加し、また、福祉関係連絡委員会が2カ月に1度開催され参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書、預り金明細書送付時に、利用者一人ひとりの生活状況を知らせる手紙とともに家族の方へ送付している。	○	毎月家族に手紙を出しているが、ホーム内での暮らしぶりを知らせる「ホーム便り」は作成されていないため、今後発行に向けて検討されることを期待する
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、利用者の暮らしぶりや健康面での報告をしながら、気軽に意見を話してもらえよう配慮し、家族が意見を言いやすい雰囲気を作っている。また、「苦情箱」も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までは出入りが多かったが、最近は落ちついてきている。職員が移動すると利用者が不穏になるとの理由により、家族や利用者には報告していない。	○	職員が定着するための具体的な取り組みや工夫を期待する。なお、職員が交代したときは、利用者一人ひとりに合わせた説明方法を工夫するなど、利用者の精神的負担の軽減に努め、また家族に報告し不安や不満をいだかせない配慮が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町主催の認知症講習に職員が参加したり、ホーム内のカンファレンスで研修を行なっているが、具体的な外部研修の年間計画は立てられていない。	○	全職員に外部研修の受講機会が得られるよう年間計画を立て、ホーム全体のスキルアップにつなげられるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者、管理者は月1回のオーナー会議に出席し、同系列のグループホーム間との意見交換を行なっているが、ほかのグループホームとの交流は行なわれていない。	○	運営者、管理者だけでなく、職員も含め、ほかのグループホームと交流を図る機会を設け、サービスの質の向上に役立てる取り組みを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者と家族の方と十分に面談を行ない、見学後入居となっている。信頼関係を築きながら利用者が安心して、納得できるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の経験や得意な分野で活躍して頂く場面作りの支援が行なわれている。好きな人は編物、縫物をしたり、プランターの水やりや、料理の味付けなど利用者から教えてもらうなど、ともに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、両者一人ひとりの状態、要望を細部にわたり把握できるよう、利用者との日常の会話や家族から情報収集を行ない、利用者の過去の経歴や嗜好を把握し、職員は、情報の共有化を図り、日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回、毎日の記録をもとにケアカンファレンスが行なわれ、利用者一人ひとりの状態が報告され、職員と支援方針を共有しているが、現状では計画作成担当者が介護計画を作成しており、家族や職員の意向や要望、気づきなどが反映されていない。	○	利用者や家族の意向や要望、職員の気付きやアイデアなどが介護計画に反映されることが望ましい。また、職員全員で利用者の状況把握に積極的に係わり、課題の把握に努め日々の介護支援で実践されることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヵ月から6ヵ月毎に見直しを行なっている。利用者の心身状況に変化があるときは、その都度、本人、家族の方と話し合い、医療機関とも相談し、現状に即した計画見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望により掛け付け医への通院介助や、職員との買物、散歩の同行など、利用者ニーズに応える支援を提供している。また、ホームの独自のサービスとして、隣接する整骨院でマッサージサービスが無料で実施されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する掛り付け医への通院や受診支援を行なっている。受診内容はその都度電話や面会時に家族に報告され、報告内容は、記録として残されている。看護師が常勤しており、利用者の健康状態に配慮し、ケアサービスを提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に、重度化した場合や終末期のあり方について、明確な取り決めは明示されておらず、急変時に対応できるような話し合いは行なわれていない。現在、資料を集め準備している段階である。	○	重度化や終末期に向けた指針を整備するにあたり、今後家族や職員、医療機関との連携で話し合いを持ち、具体的方策の検討し、早い時期に作成されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などの書類は個別に保管し、個人情報を他言しないことは職員間で当然の遵守事項として認識されている。また、利用者の尊厳や誇りを損ねるようなことのない言葉掛けや対応を心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての決まりごとや、生活のリズムへの配慮はあるが、ホーム側の都合に合わせるのではなく、一人ひとりの生活歴や体調やスペースに合わせた暮らしの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同席し一緒に食事を取りながら、和やかに食事ができるよう支援している。利用者はそれぞれ自分の力量に応じて、準備や後かたづけなどを職員と一緒にこなしている。利用者の好みに応じてメニューも変更している。また、介助の必要な人にはさりげなく援助されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回と決まっているが、本人の希望や状況に合わせた対応がされている。利用者一人ひとりの習慣や好みを把握し、ゆっくりとくつろいだり気分よく入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの興味や力量に応じて掃除や調理の手伝い、花や野菜の水やりや洗濯物たたみなど、職員と一緒にこなしている。また、買物やドライブなどの外出や、趣味の編物や囲碁、華道、カラオケなど気晴らしや楽しみごとの支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は散歩や買物、ドライブなど希望に応じた対応が行われている。車いすの方も2階の戸外のベランダで運動を行なうなど、できるだけ戸外に出られるように支援されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価の課題であった施錠について、以前は喫煙者が外に出て吸われるため、鍵を掛けていたが現在は、ホーム内（玄関）にて喫煙しているので夜間のみ施錠している。		

東川町 グループホーム プランタン東川

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施され、また緊急連絡網も整備されている。しかし、町内会や地域住民への働き掛けは行なわれておらず、協力体制を築くまでには至っていない。	○	利用者の安全や生命を守るため、町内会や、地域住民に声掛けし、災害時のときなど援助してもらえるような協力体制を構築することが望まれる。また、緊急時に全職員が対応できるよう救急救命の講習の受講など実践的研修が望まれる。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分の摂取量や食事の量などは記録され、職員間で共有されている。また、利用者の身体状況に合わせ流動食、刻み食など配慮されている。		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の明るくゆったりしており居間には食卓テーブルや椅子のほかにソファが置かれ、利用者は、思い思いの場所でくつろげるスペースが確保されている。2階のベランダは広く、焼き肉パーティなどができ、夏場は利用者の憩いの場となっている。気になる臭いもなく、音や光、温度も適宜調整されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れ馴染みの家具、仏壇、装飾品、写真などが持ち込まれており、利用者本人にとって安心感ある心地の良い居場所になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。